

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
久岐通商(株)第3物流センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性			1.0	0.20		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.33		-	
2	給排水・衛生設備		1.0	0.33		-	
3	電気設備		1.0	0.33		-	
4	機械・配管支持方法		-	-		-	
5	通信・情報設備		-	-		-	
3 対応性・更新性			4.3	0.50		-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1	階高のゆとり	天井クレーン(揚程10m+揚程7m)2台が南北に走行 軒高FL+14,000	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=(116+25)×2/2900=0.097	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		倉庫業を営む倉庫のため、床荷重3,900N/㎡以上	4.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			4.1	0.40		-	
1	空調配管の更新性		-	-		-	
2	給排水管の更新性	構造体を痛めることなく更新・修復ができる	4.0	0.29		-	
3	電気配線の更新性	構造体を痛めることなく更新・修復ができる	5.0	0.14		-	
4	通信配線の更新性		-	-		-	
5	設備機器の更新性	構造体を痛めることなく更新・修復ができる	5.0	0.29		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.29		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-		-	3.0
2 自然エネルギー利用		東西壁上部にFIX窓を設置、採光を取り入れている。	4.0	0.13		-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.43 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.63		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		LED照明を使用しスイッチも分散、電力量を節約できる。	4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)						-	
4 効率的運用			2.0	0.25		-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1 モニタリング						-	
4.2 運用管理体制						-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60		-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.14		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.29		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.29		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		鉄骨造で外装板・内装板ともビス止で、取外しが容易です。	5.0	0.29		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	1.00		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	-		-	
3 冷媒			-	-		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.6
1 地球温暖化への配慮		CO2を発生させる設備を使用しない。	4.2	0.33		-	4.2
2 地域環境への配慮			3.7	0.33		-	3.7
2.1 大気汚染防止		CO2を発生させる設備を使用しない。	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制			-	-		-	
3 交通負荷抑制		十分な駐車スペースを確保。	4.0	0.50		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		既設と合わせて分別収集します。業者のバケツを用意。	4.0	0.50		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制						-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	